

3. 4 断層モデル等の構築（近畿圏）

3. 4. 1 事業概要

地震学・測地学・強震動地震学などの基礎研究を通して、震源断層や地下構造等のモデル化手法、さらには地震動の予測手法の高度化を図る。得られた手法を「大深度弾性波探査」や（独）防災科学技術研究所によって行われる「大規模ボーリング調査」の成果に適用して、近畿圏に影響を及ぼし得る震源断層の断層モデルの構築、震源域から大阪平野等の大都市圏等までの地殻構造モデルの構築、及び大都市が位置する堆積盆地構造モデルを構築し、地震動予測（長期評価、強震動評価）の精度を向上させる。

「断層モデル等の構築」は、自然地震・制御震源を用いた内陸活断層の深部モデルと地殻内三次元構造モデルの構築に関する研究、断層の準静的モデルの構築と歪蓄積過程に関する研究、強震動予測のためのモデルの高精度化に関する研究の3項目に分けて進められている。今年度の研究成果を次節より報告する。